

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年6月9日(2005.6.9)

【公開番号】特開2004-143268(P2004-143268A)

【公開日】平成16年5月20日(2004.5.20)

【年通号数】公開・登録公報2004-019

【出願番号】特願2002-308853(P2002-308853)

【国際特許分類第7版】

C 0 8 L 67/00

C 0 8 J 5/00

C 0 8 K 5/10

//(C 0 8 L 67/00

C 0 8 L 93:04)

【F I】

C 0 8 L 67/00

C 0 8 J 5/00 C F D

C 0 8 K 5/10

C 0 8 L 67/00

C 0 8 L 93:04

【手続補正書】

【提出日】平成16年8月23日(2004.8.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

乳酸成分(I)としては、ポリ乳酸又はラクタイトを原料として用いることが好ましい。原料としてポリ乳酸又はラクタイトを用いた場合、得られる乳酸ポリエステルはプロック共重合体となり、透明性に優れ、かつ優れた耐折強さを付与することができる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 0】

(耐折回数)

厚さ約250μmのシートを用い、MIT耐揉疲労試験機((株)東洋精機製作所)により、JIS P-8115に基づいて測定した。尚、耐折強さは耐折回数の常用対数である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 4】

製造例2～11(乳酸系ポリエステルP-2～P-11の作製)

ジカルボン酸、ジオール、ラクタイトの種類、添加量を表1のように変えた以外は、製

造例1と同様にして、乳酸系ポリエステル（P-2～P-11）を合成した。

各ポリマーの数平均分子量（M_n）、重量平均分子量（M_w）、ガラス転移点（T_g）についても表1～3に示す。